





番号	事故発生状況	事故発生場所				発生時間			リフトの種類					生産区分		事故区分		人身事故状況			物損内容			事故の推定原因					事故後の処置				設置年月	使用年数(概算)	保守契約		
		ディーラー	業者	ガスリンスタンド	用品店	その他	午前	午後	時間外・不明	二柱	四柱	リンク	埋設	ツイーンリフト	その他	国産品	輸入品	人身事故	物損事故	負傷1月以内	負傷1月以上	死亡	乗用車	トラック	その他	リフト不良	設置不良	取扱不良	点検不履行	その他	取扱方法等の説明	入替え			修理	その他	有
14	フロントアタッチメントが車両のフロントアクスルに正しくセットされていない状態でリフトを上昇させたため、車両が前方へ落下してフロント部分を破損した。原因は、アタッチメントを正しくセットしていなかったためと考えられる。対策として、リフト点検を行うとともに正しい取り扱い方法を説明した。	○						○							○																				不明		○
15	車両をリフトアップしたところ、ポンプユニット内のイコライザが破損し、昇降動作が停止した。その後、上昇および下降動作が不能となった。原因は、ポンプユニット内イコライザ底部の溶接加工箇所が損傷していたことによるものと考えられる。対策として、油圧ユニットを交換した。			○				○		○					○																			R1.1	6年	○	
16	車両をリフトアップした後、作業員が離れた直後にリフトが自動的に上限まで上昇した。原因は、リモコンリールの短絡による誤作動と考えられる。対策として、リモコン及びリモコンリールの点検を実施した。	○						○			○				○																			H31.1	6年	○	
17	車両を地上約1mまでリフトアップした状態でタイヤ脱着作業を行ったところ、車両がリフトから落下した。原因は、リフトポイントとアタッチメントのセット確認が不十分であったと考えられる。対策として、リフトの点検を実施するとともに作業員に対して正しい取り扱い方法を説明した。			○				○							○																			H28.11	9年	○	
18	リフトアップした車両を下降させていたところ、作業員が一時的に目を離した間に左右差が発生し、車両がリフトから落車した。事業場は、当該リフトに以前から左右差が発生していることを認識していたが、修理を行わずに使用を継続しており、さらに日常的に車両下につきい棒を入れて左右差を補正するなど、不適切な方法で使用していた。原因は、同調チェーンが著しく伸びていたことに加え、作業への慣れによる注意不足や取り扱い不良が重なったためと考えられる。対策として、リフトの修理を実施するとともに、リフトの正しい取り扱い方法について改めて説明を行い、併せて定期点検の重要性についても説明を行った。			○				○							○																			R4.2	3年	○	
19	バスをリフトアップして作業を行った後、最下限まで下降させた位置でリア側のアタッチメントを取り外そうとしたが、取り外すことができなかった。そのため再度リフトアップを行い、タイヤ着地部に角材を敷いて着地位置をかさ上げたうえで下降させたが、バスのパーキングブレーキをかけていなかったため車両が動いてしまった。作業員が咄嗟に車両を止めようとした際、足を轢かれ骨折した。原因は、角材を使用して着地位置のかさ上げを行ったためと推測される。対策として、リフトの正しい取り扱い方法について改めて説明を行うとともに、適切なアタッチメントの使用を提案した。	○						○							○																			不明		○	





番号	機器名	事故発生状況	事故の発生場所				発生時間			生産区分		事故区分			人身事故状況			物損内訳			事故の推定原因					事故後の処置				設置年月	使用年数(概算)	保守点検	
			ディーラー	業者	ガソリンスタンド	用品店	その他	午前	午後	時間外・不明	国産品	輸入品	人身事故	物損事故	負傷1月以内	負傷1月以上	死亡	乗用車	トラック	その他	機器の不良	設置不良	取扱不良	点検不履行	その他	取扱方法等の説明	入れ替え	修理	その他			有	無
7	エアースリール	エアースリール使用中、ホースが暴れて作業員の顔面に接触し、数針縫合を要する負傷を負った。 原因は、ホースが劣化により破裂し、その反動で暴れたことによるものと考えられる。 対策として、エアースリールの正しい取り扱い方法について説明を行うとともにホースの暴れを防止する装置の取り付けを提案した。	○						○	○	○	○										○	○	○				不明				○	
8	ガレージ・ジャッキ	ガレージ・ジャッキを使用して大型車のスタビライザーリンクを持ち上げようとしたところ、ジャッキのシリンダーが破断した。 原因として、点検不足が推測される。 対策として、ミッションジャッキについて定期的な点検を実施するよう説明を行った。	○					○	○		○						○	○				○			○			H26.9	11年			○	
9	温水洗車機	整備ストールにぶら下げていた洗淨ガンが、ポンプの稼働と同時に噴射して暴れ、付近の車両に接触し破損させた。 原因は、洗淨ガンの固定ピンが引っかかった状態であることに気づかないまま作動させてしまったことと考えられる。 対策として、点検と修理を実施するとともに、洗淨ガンの暴れ防止策について提案を行った。	○						○	○	○						○					○	○	○				不明				○	
小計			6	0	0	1	2	2	3	4	9	0	1	8	1	0	0	4	4	0	2	0	3	5	0	4	1	7	3			1	8
総計			9				9			9		9			1			8			10					15						9	